

Title	マプーチェ歴史伝承：チョルチョル地区(1)：ロサ・バーラ・カユルの語る「平定」
Author(s)	千葉, 泉
Citation	大阪外国語大学論集. 21 p.193-p.215
Issue Date	1999-09-30
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79808
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

マプーチェ歴史伝承： Chol Chol 地区（1） — ロサ・バーラ・カユルの語る「平定」 —

千 葉 泉

Testimonio histórico mapuche : Choll Choll (1) - "Pacificación" contada por doña Rosa Barra Cayul -

CHIBA Izumi

RESUMEN（要約）

Este artículo es un testimonio histórico contado por una señora mapuche. El pueblo mapuche es el grupo étnico indígena residente mayormente en el sur de Chile, y se ha hecho famoso por haber mantenido largamente una vida independiente frente a los conquistadores españoles primero, y después contra los chilenos que quisieron dominar su territorio. Este último intento, llamado "Pacificación" u "Ocupación de la Araucanía", fue llevado a cabo por el ejército chileno en la segunda mitad del siglo pasado.

Rosa Barra Cayul es una señora mapuche residente en la comunidad de Romulhue, ubicada en el sector de Choll Choll de la Novena Región. Cumplía sesenta y siete años en el momento que el autor le hizo la entrevista. Es una "machi", shamán de la sociedad mapuche, que cumple un rol importante en distintas manifestaciones religiosas tales como el nguillatun y el machitun.

En el testimonio, doña Rosa nos cuenta en idioma mapuche de la situación concreta que vivieron los habitantes de Choll Choll durante la "Pacificación", guerra que acarreó consecuencias terribles y muchas muertes para ellos. En su testimonio se destaca la resistencia que opusieron los guerreros de la zona, dirigidos mayormente por don Venancio Coñoeacán y su hermano Millapán, además de la actuación de su abuelo que salió a pelear montado en un caballo blanco que vestiría un poder sobrenatural gracias a que había participado en ceremonias de rogativa llamado "nguillatun".

Aparte de la versión original que transcribe literalmente la conversación que se sostuvo entre la Sra. Rosa Barra y el autor, se agrega la traducción completa de la misma en idioma japonés.

1. 序

本稿はチリの先住民マプーチェの女性ロサ・バーラ・カユルが筆者に語った、ある歴史的出来事に関する伝承である。

ロサは、チリ南部第9アラウカニア地域のチョル Chol 地区に位置するロムルウエという先住民マプーチェの共同体に住み、シャーマンの医療師「マチ machi」⁽¹⁾として働いている。伝承を語ってくれた1996年8月当時、彼女は67才であった。

筆者がロサに始めて会ったのはその4年前のことである。文部省の在外研究員としてチリに滞在していた1993年7月のある日、筆者は首都サンティアゴ市内で開かれた二重言語教育に関するシンポジウムに参加した。そこで筆者は偶然に、ロサの息子であるイラリオと知り合ったのである。（写真1）筆者がマプーチェ語を勉強していることに感激した彼は、マチである母親を紹介したいのでロムルウエ共同体に行くようにと誘ってくれた。こうして、当時第9地域の首都テムコ市の南方に位置するフレイレ集落に住んでいたイラリオとともに、1993年12月のある日、筆者はロサの家へ向かったのであった。

イラリオは、訪問前に筆者に対して入念な注意を与えていた。マチ（シャーマン）になりたいきさつ等むやみな質問をロサに対してしないこと。彼女が儀礼に用いる階段状の木彫り（レウエ）をじっと見つめたりしないこと。もちろんビデオや写真で撮影することはおろか、話を録音することも御法度である。

イラリオの注意は、マチの家を訪問させてもらえるだけで大いに感謝していた筆者にとって、むしろ当たり前のことに感じられた。こうして期待に胸をふくらませ、筆者はロサの家に向かったのである。

テムコ市のバス・ターミナルから午後のバスに乗り、1時間半ほどでチョル Chol 集落に到着する。しかし、その日ロムルウエ方面に向かうバスはなかったため、その先はイラリオの友人が運転するジープで行くことになった。こうして、結局我々がバーラ家に到着したのは夜10時ころのことであった。

共同体にはまだ電気が届いておらず、辺りは真っ暗で家の者はもう皆寝てしまっていた。だがイラリオの呼び声にロサは起きてきて、我々をテーブルの置かれた小さな木造小屋に案内してくれた。身長は1メートル55センチほどでほっそりした体つき、眠そうな顔に笑みをたたえたロサは、日本の農村のどこにでもいそうな優しいおばあさんといった風体の女性であった。（写真2）

イラリオは、「マプーチェ語が話せる日本人」というふれこみで筆者のことを宣伝していたので、伝統主義のマチであるロサは、初めから容赦のないマプーチェ語で立て続けに話しかけて来た。当時、いわば初級文法の半分ほどを終えたばかりに過ぎないレベルのマプーチェ語の知識しかなく、しかも首都サンティアゴでは会話を実践する機会をあまり持たなかった筆者には、正直なところ彼女の話す内容はほとんどわからなかった。

そんな様子を悟ってか、ロサはそのうち私にあまり話かけなくなった。筆者は、自分のマプーチェ語の実力が全く不十分であることを否応なしに認識させられたこと、そしてロサに

悪い印象を持たれたのではないかという疑念も手伝って、かなり落胆して一夜を過ごした。

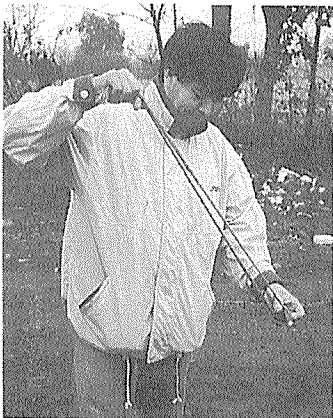
だが翌日の朝食後、少し畑仕事を手伝ったりしたこともあってか、ロサの表情は少しずつなごやかなものになっていった。また、こちらは片言のマプーチェ語にスペイン語を混ぜながらという形ではあったが、少しずつ会話もはずんでいった。

すると突然、彼女はブロークンなスペイン語である歴史伝承を話し始めた。それは、100年以上前に起こった「平定 Pacificación」という戦争に関する話であった。この戦争を実際に体験した自分の「祖母」⁽²⁾ が、涙を流しながらこの話をよく自分たちに話して聴かせてくれていたものだ、とロサは言う。自分の母方祖父をはじめ、当時の Cholchol 地区の住民の行動や意識を伝えるこの伝承を淡々と語るロサの表情の裏には、やるせない悲しみと憤りの感情が秘められていた。

ロサの語りはその具体性、そしてそこに込められた赤裸々な感情ゆえに、それまで筆者の頭の中で文献を通じて構築されていた「机上」の「平定」戦争のイメージを強く揺さぶった。また、Cholchol 地区の人々の行動に関する具体的な情報という点でも、筆者の知らなかった興味深い点がいくつも含まれていた。

後でイラリオは、母の伝承を後生に残したいと思いつつも、今まで実現することができないでいるんだ、と語った。その瞬間、この話をいつかマプーチェ語で語ってもらって文字にして残そう、そして、そのためにもっとしっかりマプーチェ語を勉強しよう、そう筆者は決心していた。

そして3年の月日が流れた。その間日本にいながら独学でマプーチェ語の学習を続けたおかげで、筆者のマプーチェ語の運用能力はかなり上達していた。こうして、再度チリを訪れた際、筆者はイラリオに、ロサにマプーチェ語で再び「平定」の話をしてもらって録音し、それを出版したいという旨を伝えた。イラリオは筆者の意図に賛同し、彼女に意向を尋ねてくれた。そして、ロサは筆者の申し出を心よく引き受けてくれた。こうして実現したのが本稿を構成する証言である。



(写真1) 自分で作った投石縄の出来ばえを試すイラリオ



(写真2) 自宅の庭園で薬草を手にするロサ

2. ロサ・バーラの証言の価値

ロサ・バーラの証言の中核をなすテーマは、「平定」戦争当時のチオルテオル地区の人々の動勢である。

16世紀中葉以来、マプーチェは長期にわたってスペイン人による征服と植民の試みに対して軍事抵抗を繰り返して、一旦はスペイン人による征服を受容しながらも、17世紀の初頭に事実上の独立を回復するのに成功した。以後、植民地社会および独立以降のチリ・イスパノクリオーリョ社会から様々な政治・軍事的圧力や文化的影響を受容⁽³⁾しながらも、19世紀後半に到るまで基本的に自律的な存在を保持した。

こうした彼らの生活を大きく変えたのが「平定」と呼ばれる歴史的事件である。「平定」とは、1860年代初頭から1882年にかけての約20年間にわたって、チリ共和国軍によって南部アラウカニア地域で推進された軍事行為である。これは、チリ政府や軍の記録ではしばしば「アラウカニアの占領 *Ocupación de la Araucanía*」という名称でも認識されている。

「平定」の結果、マプーチェたちがそれまで享有してきた500万ヘクタールを越す土地は国有化され、その90%以上はイタリア人を始めとするヨーロッパ系移民やチリ人の移民に譲渡されたり競売にかけられた。⁽⁴⁾

一方、「平定」によって決定的にチリ共和国の法制に従属することになったマプーチェは、数家族ごとに狭い共同体（居留地）を指定され、以来貧農としての生活を強いられることになった。⁽⁵⁾

このように、「平定」はチリ共和国政府にとって南部における国家統合の促進をもたらした重要な「成果」であったと同時に、マプーチェにとっては民族の運命に決定的な転換を強いる歴史的な大事件であったといえる。それにも関わらず、この出来事に関する歴史研究は、主に「勝者」であるヨーロッパ系チリ人がスペイン語で残した記録に基づいて行われてきた。

マプーチェが無文字民族であったこともあり、16世紀中葉のスペイン人による征服当時から19世紀末に到るまで、彼らの証言をマプーチェ語で残した記録はほとんど皆無に等しい。⁽⁶⁾ こうした状況のもと、征服期やそれに続く植民地時代、あるいは独立後の19世紀初頭から中葉にかけての時期のマプーチェ民族の歴史に関する研究は、主にヨーロッパ人がスペイン語を始めとするヨーロッパ語で残した記録に依拠して行われてきた。

このような研究の傾向に対して、先住民自身の視点を歴史叙述に反映させられないという批判を行うことは可能であろう。だが、少なくとも「平定」より前の時期のマプーチェ社会に関する歴史研究については、同時代の記録文書の偏向的状况に鑑みる限り、ある程度やむを得ないことと言えるかもしれない。

それでは、今から約120年ほど前に起こった「平定」についてはどうだろうか。「平定」についても、チリ内外のヨーロッパ系住民の記録者がヨーロッパ語で残した資料は膨大な量にのぼり、政府や軍関係者の書簡や報告書、教会関係者の記録、さまざまな潮流の新聞など多岐に渡っている。こうして「平定」に関する歴史研究も、やはり主にヨーロッパ系の記録者がヨーロッパの言語で残した文献記録に依拠して行われてきた。

ただし、この出来事については、当時者であるマプーチェがマプーチェ語で語った証言が記録として全く残されていないわけではない。

「平定」の比較的直後の時期に、「平定」に関する情報を内包する形でマプーチェ自身がマプーチェ語で語った証言を筆記した文献は二つある。一つは、トマス・ゲバラが様々な地区で有力であった一族の直系者などから聴き出した証言を編纂した「最後のアラウカーノの家族たちとアラウカーノの習慣 (1913年)」である。そしてもう一つは、ブディ地区のカシーケであるパスクアル・コーニャの証言をメースバツハ神父が採録した「あるカシーケの証言 (1930年初版)」である。

だが、これら少数の証言記録が「平定」当時のマプーチェ居住全領域で起こったあらゆる出来事を網羅しているわけではない。また同一の出来事に関しても、複数の異なる地区のマプーチェたちの多様な認識が十分に反映されているとも言い難い。

一例を挙げよう。ゲバラの編纂による証言集には当時 Cholchol 地区随一の有力者であった ベナンシオ・コニョエパンに関する内容が含まれている。だが、これは同一族の直系者でもコニョエパンと行動を共にした人物でもなく、おなじ Cholchol 地区の有力者でありながら、コニョエパンとは一線を画す立場にあった2名の人物の証言に基づいている。

彼らの証言では、コニョエパンは常にチリ政府に対して従順であり続けたこと、「平定」を阻止するために各地のマプーチェが実行した一斉蜂起の際、コニョエパンは反乱派の報復を恐れてテムコ要塞に避難したこと、そして反乱を指導した兄のミジャパンとコニョエパンとの対立を示すエピソードなどが語られている。つまりコニョエパンのイメージは、むしろ「平定」に積極的に加担した人物のそれになっているのである。^⑦

一方、同じ Cholchol 地区の有力者でも、コニョエパンと行動を共にした祖父を持つロサが語るコニョエパンは、こうしたイメージとは大きくかけ離れている。ロサよれば、コニョエパンはよそ者「ウィンカ *winka*」の侵略に対抗するため、共和国軍関係者に忠誠を誓うふりをしながら大量の銃を入手して近隣地区の戦士たちに配ったり、共和国軍を打倒するための祈願儀礼を主催して近隣の多数の戦士を結集するなど、むしろ「平定」への抵抗を積極的に組織した「機知あふれる勇者」であった。また、ミジャパンとコニョエパンの関係についても、むしろ両者が結束して「平定」に対抗しようと努力したという側面が強調されている。

前述の証言に含まれていたテムコ要塞への避難というエピソードをはじめ、「平定への協力者」というコニョエパンの一面に関する情報については、ホセ・ベンゴアの力作「マプーチェの歴史」でも、子細を目撃した人物からの情報を含む伝承である他地区のマプーチェの証言や、コニョエパンを要塞にかくまった当のウルティア將軍をはじめとする軍関係者の記録などが報告されているので、おそらく事実無根というわけではないのだろう。^⑧

それに対し、ロサの証言では「平定への協力者」としての一面は一切触れられず、あくまでも「平定への抵抗者」としてのコニョエパンの行動が強調されている。その意味では、あるいは一部の「事実」の消去、あるいは誇張といった「操作」が含まれていると言えるかもしれない。

しかし一方で、「平定に対する抵抗」という側面でのコニョエパンの言動に関する詳しい情

報をはじめとして、上記の証言や文献記録には出てこない情報も多く含まれている。そして何よりも、カユル家をはじめ当時のチョルテヨル地区の人たちが経験した悲しみや苦しみなどの感情を、極めて具体性に富んだエピソードを交えながら赤裸々に伝えるという価値を備えている。

これはあくまでも一例に過ぎないが、少なくとも次のことを示唆している。すなわち、「平定」当時発生した（さまざまな）同一の出来事やそれに関与した人物について、同じマプーチェでも地区等によって多様な視点や認識が存在すること、そしてこうした多様な視点・認識が、出版されている数少ないマプーチェの証言記録によって充分明らかにされているとは言い難いということである。

ところで、今世紀に入るまで事実上文字を持たなかったマプーチェの間でも、歴史伝承の習慣は存在してきた。人並み外れた記憶力を持つ「ウェウピフェ weupife」あるいは「ゲンピン ngenpin」と呼ばれる語り部がおり、彼らの手でそれぞれの地区における過去の出来事が口伝えて語り継がれてきたのである。今は亡きロサの夫も、生前、地区の「ウェウピフェ」であった。また彼らのような特別な技能を持たない通常のマプーチェの間でも、長い冬の雨期を利用して年長者が年少者に歴史伝承を語るという習慣は盛んであった。

現時点では「平定」完了後既に110年以上が経過しているため、「平定」の当事者（直接的体験者）を見いだすことは事実上不可能であろう。しかし、本稿で扱うロサのように、当事者であった祖父母や父、母などの近親者から自地区で当時起こった出来事に関する具体性の高い伝承を受け継いでいる人物は決して少なくない。

その一方で、「平定」以後急速に「ヨーロッパ化」が進みつつあるマプーチェ社会で、彼らの運命を大きく変えたこの出来事に関する記憶が失われつつあるのも事実である。伝承の保持者は老年化して行き、亡くなる者も多い。若い世代のマプーチェの間では、学校教育その他を通じてスペイン語化の傾向が進み、近代的な価値観の浸透とともに自民族の歴史に関する関心も薄れつつある。

したがって、あと20～30年もすれば、「平定」に関する、マプーチェたち自身による生々しい口頭証言を得ることが多くの地区で極めて困難になることはほぼ確実である。つまり、征服から19世紀中葉の時期のマプーチェ社会に関する記録文書の特徴付ける「他者視点への偏向」という嘆かわしい状況が再生産される可能性は決して少なくないのである。

もちろん、「平定」以後1世紀以上経過していること、また伝承者とは言っても厳密には「平定」の直接経験者ではないことから、こうした証言において当時の出来事に関する子細な情報が忘却、誤解、あるいは誇張されて記憶されている可能性も否定できまい。そうした意味では、「客観的な真実」とは言えない部分も含まれているかも知れない。

ただそうした「欠点」以上に、これらの伝承には、特定の地区の人々が取った行動や当時彼らが抱いていた意識などに関する多くの具体的な情報を、「当事者の視点」で赤裸々に伝えるというかけがえのない価値が内包されている。

そして何よりも、現在のマプーチェ社会を構成する人々の間で、こうした口伝の情報こそ「自分たちにとっての歴史的眞実」であると認識する者が決して少なくないという事実も忘れ

てはなるまい。

「勝者」がヨーロッパ語で文字に残した記録のみに基づいて語られる「偽りのマプーチェ史」に対する積年の憤り、マプーチェ語で代々伝えられてきた伝承こそ「真のマプーチェの歴史」であるという自負、そうした「真のマプーチェの歴史」を何とかして後生に残したいという焦燥、そうした諸々の思いがこれらの伝承を語るマプーチェたちの心には刻まれている。⁹⁾「心に刻みつけたもの (piukentukulu) は覚えているものだ」、ロサはそう表現している。

「研究者が設定した仮説」を検証するために有効な、あるいは必要なデータかどうかという発想ではなく、自分が「研究の対象」としている人々自身がどういうことを書いて欲しいのか、どういうことを外部者に伝えたいのかという観点で収集した情報を記録として書き残すという作業も、また歴史的価値のある営為であろう。

本稿はこうした観点から、「平定」に関するマプーチェ自身の記憶の1例をとにかく原語の形で文字にして残すことを最大の目的としている。もちろん、1地区の1名のマプーチェの記憶で民族全体の認識を代弁させることはできない。しかし、こうした具体的な地区レベル、家族レベルでの伝承を集積していくことにより、「平定」に関するマプーチェ側の認識の輪郭が少しずつでも明らかになっていくものと考ええる。¹⁰⁾

3. 証言筆記上の注意

ロサの証言は、筆者が彼女にマプーチェ語で質問を行い、それに対して彼女が返答するという形で得られた。そこで、彼女の証言が語られたコンテクストを出来る限り明らかにするという意図で、筆者の質問の部分も含めて対話の内容をそのまま筆記した。

ロサは現代マプーチェ社会の中で重要な宗教・社会的役割を果たすシャーマン「マチ」であり、伝統的な生活様式を強く保持する人物である。ゆえに、彼女の証言はほぼ純粋なマプーチェ語で行われている。

しかしながら一方で、スペイン語から借用されている語彙も、主に名詞レベルおよび動詞語幹のレベルで若干見られる。そこで、現代のかなり純粋なマプーチェ語話者の語りに見られるスペイン語の影響の具体例を呈示するという目的で、原語証言に含まれるスペイン語起源の部分、および邦語訳のそれに対応する部分にそれぞれ下線を付した。

また、原語部と邦語訳部の対照を容易にするため、内容のまとまりに応じていくつかの小見出しを付けたほか、より小さな分量ごとに番号（小カッコ内）を付した。

なお、やはり読者の理解を容易にする目的で、邦語訳には必要に応じて補足的な表現を小カッコ内に挿入して書き加えた。

4. ロサ・バーラ・カユルの証言（原マプーチェ語版）[Testimonio de doña Rosa Barra Cayul (versión original en idioma mapuche)]

< Chumngechi ta ñi kewan Choll Choll pu che "Pacificación" pingechi aukan meu >

(1) [Autor] Eimi feula ta nütramkayaimi kuifike dungu mülefulu fau püle, tüfachi lof püle, no?

[Rosa] Ya.

[Autor] Feichi "Pacificación" pingechi dungu mülefui. Feichitu ta tüfachi chi pu che ta aukakefuingün, no?

[Rosa] Femi. Aukakefui kuifi che. Pu lonko ⁽¹¹⁾ aukaingün lle mai. Fei kisu, fei ta, feiti Coñoepán, fei mu amui. Kom amutui tüfachi lof che pingei. Fei ta engün, pu ..., tüfa..., "lelfünche" pingkefuingün ta ti.

[Autor] Felei. Lelfünche pingefui.

(2) [Rosa] Lelfünche pingeingün. Malalche amui pingei, Coipucoche, kom amui üyüu Coñoepán mo engün. Fei kisu engün aukatuingün, kewangetui chi pu winka.

Femngechi fei kisu am yemelu arma ⁽¹²⁾, enseñangei kom ñi chumngechi ñi chumaal, fei kewatufi chi pu winka. Rangi pu winka eluumei, enseñangelu, chialintukuwi winka mu pingei. "Înche langüman ñi pu chem, ñi pu wenüi, peñi pirkei ñi koila, re koila mu.

[Autor] Felei.

[Rosa] Elungelu arma, fei kewalu enseñangei, adümi chi tralka, fei küpaltui tralka pingei. Arma küpaltui. Fei wüño..., wüñowemutufi reke chi pu winka, wüñokellutui ñi pu familia pingekei. Fei mu ta fentren piukeyengefui ta Coñoepán ta ti. Rume duamngekefui.

Femngechi rume kutrankawüñ pikefuingün. Fei tüfachi pu che ta kiñe mufu montui müten aukan mu pikeingün. Pura montuingün müten pingei. Langümniengeingün. Langümniengeingün. Kisu engün fün rüngi witruwe miyawülingün, fei kisu engün tralka mu mekeel kai. Fei ta mu fei ta ñi pu che, fei pichilewei müten.

(3) Malal pingei ta ti, Lliwiñ pingei wentetu. Fei mu fei amurkeingün, epe dintukungelu engün. Kiñe winkul mülei pingei, fei mu pürafui kisu engün, epe dintukurpuel engün, fei mu fei ti lonko fei pirkei: "Wedake trewa, üñüm rume nga tukefun, tüfa mu tulayafuiñ chi am kapitán pi, sin kapitán amunolu engün kai. Fei mu pirkei, küpalelmuchi kura pirkei, fei witruturkefi chi pu inantukunieeteu engün. Fei witrutufilu pingei, ngeküllifi pingei. Ngeküllifilu ta tripai ñi nge pingei. Waichüfwaichüfngai pingei am. Fei, fei wüñoingün fei mu. Fei mu montuiñ pikei. Ngelaafui ta fachi mapu che pingekei. Ngelayafui.

< Chumngechi ta ñi kutrankiawün ta che >

(4) Fei pichikeche pingei, katrüpelkunuyefingün. Katrüpelkunufingün pingei. Fei ñinche ñi mamá yem, fei ellkangerkei mawida mu. Retrüntukukunungefui ⁽¹³⁾ pingei kiñe fütta külantu mu. Ñi ñuke yem.

[Autor] Küla antü mu? ⁽¹⁴⁾

[Rosa] Mai, külantu mu. Epe wün pi am yengepatui ka, fei, fei mu müleiñ ta

iñchiñ ta ti.

Fei kisu engün aukamelu kai, ñi lonko kai. Ñi futa abuelito em kai ta ti. Fei ti abuelito por parte de mi mamá.

[Autor] Felei.

(5) [Rosa] Yemerkei ⁽¹⁵⁾ kiñe señora. ⁽¹⁶⁾ Fanteni kiñe pichi señora entumerkefi pichi señora. Lumaco püle yemei pingei. Fei yemelu, tremfi, fei tremlu chi señora fei nietufi. Fei mu mülei ñi ñuke yem. Fei mu mülei.

(6) Femngechi pingekufi ta ti, rume weshalekufi ta dungu. Fei kisu engün ta akurumei ta ti pu winka. Fei ta kisu engün ta langümafiñ winka ta pifuingün. Tüfa Choll Choll ta ngekelaufi pingei ta ti. Temuco ngekelaufi pingei. Purén ka.

Purén fei apümpafi chi kiñe lof che engün pingei. Kom afi pingei chi lof che. Fei ..., fei kisu engün anümpai ruka engün, wariupaingün. Femngechi akuingün, pingekelaingün amta chi pu winka ta ti, fei ti entupai colón ⁽¹⁷⁾ ta rulpai ta nome lafquén pingekui ta ti. Fei ta winka.

Femngechi ta ti ta rume weshake dungu mu ta mülekefui, tüfa mai tükülewetui che pingé..., pikei ta ... kimlu ta ñi abuela yem ta müna fei pikefui.

(7) Chawai entuñmangei che pi, trarikuwü. Kuifi müna platangei ⁽¹⁸⁾ che kai. Fei katrüentu..., fei mu ta rüngalngei ta plata ta, mülei ta rüngal plata pikei. Fantekei meñkuwe plata, entui che, rüngali pi. Fei mu ta fei ta mülei ta rüngal plata ta rume fentrelei ta ti, entuwetulai ta ñi plata ta ti lefmaulu pikefui.

Femngechi dungu ta mülei ta kuifi pikefui ta ñi ... Rume kutrankawüñ, rüngi ta ifiñ pi. Ifiñ ta ngadu pi. Itrokom re rüngi, fantekei chi pichike wüllón, wüllón rüngi, famngechi yafüngenolu, fei iñ pikei. Wüllamtukukei kiñe wesha taro pikei. Femngechi kutrankawüñ ta ti pikefui.

< Millapán ñi femün >

(8) [Autor] Felei. Ka Millapán pingechi ...

[Rosa] Millapán pingei ta chi ...

[Autor] Peñi, no?

[Rosa] Mai, peñi. Fei mu ta fei ta akutulu ta ñi peñi, fei ta chemalu engün, fei ta nguillatui, nguillatuingün pikei. Nguillatuiñ, wüne nguillatuiñ, deu am kewarkealu inchiñ pirkei ta Millapán em. Lonko kai ta ti. Feiti nome Totori fei mu ta nguillaturkeingün. Totori pingei kiñe fütta llano mülei. Fei mu ta amui ta fachi mapu che pingei. Ka tüfei nome che, Malal che. Traflai rume ta che pikei ta ñi mamá yem. Traflai rume ta che, kiske amuyei ta ñi iael ta nguillatualu. Mekei ta ñi nguillatun ta che ta ñi weual ta winka weungeal pikei.

Femngechi wewngeingün ta ti tügpe ta ñi dungu engün, afpe ta ñi dungu engün, ñi yewetueiñmu ta winka pingün. Kuifi ta nguillatui ta che ta, rume küme nguillatuefui pikefuingün. Femngechi ta ti ta fei ta, afi ta ñi dungu engün, tripawelaingün

pingei, tūngi ta ñi dungu engün.

(9) Amur..., kechañke amui pingei ta fei ti lonko ta miauli ta kullkull pingei ta dungulkiauli. Ta deuma küpai, ka mapu küpai fei dünguli ta ñi kullkull engün. Kechakünui ta ñi ruka ta che. Lefmawi.

[Autor] Felei.

[Rosa] Lefmawi. Chemkai, tralkanienolu che kuifi. Re witruwe, fūn rüngi. Tüfa fütake mamüll ta ti niei. Fantekefui. Welu kiñe wüelafui müten ka. Kiñe wüelafui müten. Femngechi aukai ta ñi pu che, pikei ta ..., ta rangin afi ta aukan mu engün ka. Rangen afingün.

(10) Feiti cheu ngemeingün pi, ta chi, Lumaco püle ngemei pingei ka..., pingelaan ta tūfachi pu che, tüfa Coipuco che, Malalche, amuingün ta ti. Wemun..., wemuniefi ta chi winka engün, pu winka pingei, kim, kimkewale engün ta apümchekaafüingün pingekai.

Doi ngelafui ta che ta feiti Lumaco, pichilefui müten. Kisu engün ta kom kechan konpuingün ka üyüuchikunuule ka üyechikunuule, kom afafuiñ ta witruwe mu ta afafuiñ, fūn, fūn rüngi mu pikei ta ñi..., pikei ta ñi fūta abelito emürke ta ti. Fei ta iñche ta ñi abuelo em ta ti.

[Autor] Felei.

[Rosa] Ta ñi chau ta ñi chau. Femngechi wesha dungu mu ta rupai ta che pingei. Tüfa ta femngen tügkülepürakai ta ti. Aukawekalai ta che.

< Chumngechi ta ñi kewan ta ñi abuelito kiñe liü kawellu meu >

(11) [Autor] Welu eimi ta mi abuelito sería, ka kiñe liü kawellu meu ta tripai ta ñi kewael, no?

[Rosa] Fei ta tungelai pingei.

[Autor] Felei.

[Rosa] Tungelai. Rangen mu miyawí pingei, tralkatungei fachikoni pingei. Fei ngutkolngerkei leufü mu, leufü mu simullurkei kawellu pingei.

(12) Welu feichi "nguillatuwe" meu witrakechi kawellu pingei ka. Fei ta ta "ngilla-tuduwe" ta ti nieiñ ta "nguillatuwe", fei ta witrалpukei chi kawellu. Trapelngepukei pingei cruz mu. Ka nguillatuñmangepatui nguillatuñmakunungeentumei. Ka nguillatuñmaapatukei ruka mu pingei.

Feiti kawellu nüngelai. Tralkatungefui pingei. Chumngelafui am fe pingei. Weyülnoi nome leufü pingei. Niefule ta tralka feichi kawellu mu apümcheafui ta ñi abuelito.

Kelü kerfütulei pingei ta ti kawe..., Femngechi nacei pingei. Kelü ta ñi kerfü pingei. Welu flan kawellu. Flan kawellu pingei.

(13) Femngechi fei ta deu lai mai pifüiñ, montui. Ranguin mu ta rupai pingei. Kisu ta famngechi ruparupangei ta bala, tungelai pingekai. Tungeilai. Tungelai.

Tralkatun tukungei leufü mu pingei, kañpüle wefpatukei. Challwa reke miyawí pingei ta chi kawellu. Cheiyengu llemai, nürkülelu chillamuchi che kai ta ti. Challwa reke miyawí.

Fei ta weñomei pingei, chem, chem allfeñ rume ta yemelai. Tuspu yemelai chem allfeñ rume mai.

[Autor] Femngechi montui ta mi abuelito.

[Rosa] Femngechi montui ta ñi abuelito ta ti.

< Coñoepán Millapan engu ta ñi presungen >

(14) [Autor] Ka eimi pimi ta Coñoepán Millapan engu ta ñi presungen.

[Rosa] Sí, ka femngechi lle mai. Presungeingu ta, presungepai ta fei ti, yengemei ta ñi mapu mu engu. Yengemelu fei ta puulngei fei ti cheu müleai chi waria, feichi Choll Choll, fei engün ta ni mapurkefel ka ka.

Kuifi kai püchüke niei mapu pingei che. Fei ta amta inchiñ ta müleñ ta, fei ta mu mülei funtu ⁽¹⁹⁾, ka feichi mu ka tüfei mu ka mülei kiñe fütta funtu, mapuche mapu em pingei ta ti. Winka ta nüñmapaeyu ta, kewalu engün aukalu, fei ta anüpai ta winka. Kom inche pingei chemelngepai ta ñi mapu, medilngepatui ta mapuche. Fei ta fei müten ta elungetui.

(15) Femngechi ta fei ta Coñoepán ta ñi mapu em, fei ti Coñoepán engu ta Millapan feichi Choll Choll waria pikeingün ta ti. Fei ta müleai ta Choll Choll pingün, fei ta, fei ta mülei lli mai, aukafui ta, illkufui ta, inei pikei, feichi Millapan pikei. Millapan ta wünen pi. Lonko pi. Fei ta Koñoepán ta kellukei ka. Peñi kai ta ti.

Femngechi fei ta fei ti Millapan fei ngümai pikei ta ni chau em ta ti. Ngümai, anüai, we nüñmarkeanu ta ñi pu mapu ta ti pu winka, mandaturkeatu nga winka nga inchiñ pi. Nguillatui pi. Nguillatui pi. Lonko kai ta ti.

(16) Femngechi ta fei ta müñalngelu fei ta "amutunge" pingei, fei ta amtui pi. Amutui. Welu Coñoepán ta mülei ta fei mu, fei chalintukuulu am pikei. Mülei pi. Adümlu ta ñi ke..., chemün ta ti. Fei ta ka küpatui pingei ta ñi pu che mu. Chalintukuupatui, kewayaiñ pirkei. Inche ta küpalün fentren "arma" ta küpalün pirkei.

Femngechi nu am ta ti, fei ta kewatui ta chi pu winka mu, kelltui ta ñi pu mapu che, kelltufi. Fei ta kom chalintukuwi ta che pingei. Amunke pi ta üyüu llellipungemeal ta ñi llouafiel ta che. Fei ta fentren che ta nietui pingei ta kisu.

(17) Ta entutui ta ngillatun engün ka pingei. Fütta nguillatun tripatui pikei ta ñi mamá yem. Kom che ta trawi pi. Femngechi ta tükai ta chi dungu ta ti, tügpe ta dungu, ka pu che ta amukontuyawülngopalayaiñ ta winka pingün. Fei ta konwepakalaingün pi. Tükai ta ñi dungu engün pikei ta ñi mamá yem.

Femngechi ta chemi ta ti ta, cheu ta rupai ta semana tripatripangeingün pi. Akuakungeingün ta ñi inantuafiel ta malütuafeil ta che yengün pikei. Cheu ta

ayüfingün ta ruka ta ilopai kawellu ilopai ta waka engün, fei mu mülepaingun. Epu antü, küla antu mülepai kiñe ruka mu engün pi. Ta chi pu winka pi. Femngechi kutrankakei ta winka ta ti pikefui ta ñi mamá yem ta ti.

(18) [Autor] Felei. Ka kiñeke lifru meu, iñche leyen kiñeke lifru. Ka feichi lifru mu ta Venancio Coñoepán meu kofiernu ñi weni reke wiriñmangefui ta Coñoepán. Femngelai, entonces?

[Rosa] Femngelai ka. Femngechi chemi ta Coñoepán ta ti. Siempre kelluniekakefui che kai, chem em nga ti ka?

[Autor] Felei.

< Ta ñi señora ngen ta ñi chuchu >

(19) [Autor] Ka ta mi chuchu, ta mi abuela, ta mi kuku sería, ta mi chuchu ... ?

[Rosa] Ta ñi chuchu ta fei ta "señora" lle mai.

[Autor] Ya, ya, ya! Ah, "señora"?

[Rosa] Señora. Señora konin. Señora konin. Señora konin. Rűf señora konin. Cautivangemei.⁽²⁰⁾ Cautivan pirkei ta winka, cautivangemerkei ta chi señora, pichi señora.

[Autor] Ah!

[Rosa] Tremümi ta ñi abuelito em.

[Autor] Ah!

[Rosa] Tremümi, fei ta fűta señoralu, kauchulu, fei ta nierkefi. Femngechi lleüi iñche ta ñi abuela yem ta ti.

[Autor] Felei.

[Rosa] Femngechi.

[Autor] Inei pingefui?

[Rosa] Ta ñi abuela yem?

[Autor] Fei, fei.

[Rosa] Joana.

[Autor] Joana?

[Rosa] Joana pingefui.

[Autor] Ya, ya, ya.

[Rosa] Joana pingefui.

< Ta ñi ñukentu mu abuelita elueneu tűfachi kimün >

(20) [Autor] Ya. Welu feichi ta mi abuela nütramkaeimeu, nütramkakefeimeu ta feichi ... ?

[Rosa] No. Iñche kimpalafiñ. Kimpalafiñ. Ta ñi mamá yem ta ñi ..., ta ñi ..., ta ñi "abuela",⁽²¹⁾ kangelu abuela, fei ta kimpafiñ. Ta ñi ..., ta ñi mamá yem ta ni

"tía" ⁽²²⁾ yem. Fei. Fei ta ñi ab..., fei pikefui ta ñi Fei engu "lamngenwenürke" ⁽²³⁾, feiti ta ñi abuelita kangelu, ñukentu mu abuelita. Lamngenwen ta ñi ..., iñche ta ñi abuelita engurke.

Doi inanfel ⁽²⁴⁾ ta mün abuela, fütta küme kimpaauiimün, iñche rume ta kimuupan ta ti pikefui. Iñche ta kimuupan. Iñche ta inan ta ta iñche, inan ta ..., iñche ta wünen ⁽²⁵⁾ ta ti, ta mün abuelita ta inan pikefui. Lamngenwenürke. Lamngenwen.

[Autor] Lamngenwen.

[Rosa] Lamngenwen. Fei ta ñukentu ta, fei ta ñukentu mu abuela, fei ta kimfuiñ. Welu iñ ñi abuela kimlafuiñ.

(21) [Autor] Welu, entonces,inei nütramkafeimeu ta feichi "Pacificación" pingechi aukan?

[Rosa] Fei ta ñi abuelita ⁽²¹⁾ lle mai. Ta ñi mamá ta ka fei pikefi, kom. Fei ta fei mu ta kimken ta iñche. Fei mu.

Piukentukulu ka ka. Piukentukulu fei lle noa kimi. Iñche ñi pu lamngen em "kimwetukelan chem pingeiñ" pikeingün. "Eimi fente kume kimniekeimi. " Femngechi fentrelekefuiñ, pu kauchungen. Fei kechulekefuiñ. Fentreke punmakefuiñ, "nütramkalleiñ kai" pifuiñ ta ti. "Fei pikei nga iñ abuelita yem. Abuelita nga pikei. " Kintull pingefui.

Kuifike che chem üi nielu kai. Kintull pingei. "Abuelita Kintull nga fei pikei" nga pikefuiñ. "Iñche kimwetukelan chem pieteu" pikei ta ñi lamngen em. Kom perdetui ta ñi pu lamngen em ta ti. Piukentukunolu kimlai lle no am. Kimlai. Acordawetulai, pu. Acordawetulai.

5. ロサ・バーラ・カクルの証言 (邦語訳版) [Testimonio de doña Rosa Barra Cayul (Traducción en japonés)]

<チヨルチヨル地区の人々が「平定」戦争をいかに戦ったか>

(1) 「筆者」ではあなた、このあたりで、この地区あたりでむかしあった出来事を話して下さい、ね？

「ロサ」ああ。

「筆者」その、『平定』っていう事がありました。その頃この地の人々は戦ったんですよ。

「ロサ」そのとおり。先祖たちは戦った。ロンコ (首長) ⁽¹¹⁾ たちは戦ったのだ。それである者、それでな、そのコニョエバンという者、その者のもとへ行ったのだ。この地区の者は皆出かけたのだという。それで彼らはな…、ここは…、『レルフンチェ (平地の人)』と呼ばれていたんじゃないよ。

「筆者」そうですか。レルフンチェと呼ばれていたと。

(2) 「ロサ」レルフンチェという。マラルの者も行ったといわれておるし、コイプコの者

たちも、皆がそちらに、コニョエパンのもとへ馳せ参じたのだ。それで彼らは戦い、ウィンカに攻撃をしかけたんじゃよ。

そういうわけで、あの者（コニョエパン）は銃⁽¹²⁾を取りに行き、使い方の子細を教わってな、それでウィンカたちに戦いをしかけたのじゃよ。ウィンカの中に身を置いて、（銃の使い方を）教わり、自分はウィンカに加勢すると宣言したそうだと。「わしは自分の仲間たちを、友人たち、兄弟たちを殺すつもりだ」、そう嘘を言ったそうじゃ。全くの嘘だったのじゃよ。

「筆者」なるほど。

「ロサ」銃を渡されて、それで撃ち方を教わり、銃の扱いを覚えたところでは、それで銃を持ってきたそうだと。銃を持ってきたとな。それでまた…、再びウィンカたちを追い払うようにしてな、自分の地区の家族のものたちに再び助力したと言われておる。だからコニョエパンは人々に心から敬愛されていた。大いに頼りにされていたのじゃ。

そんなわけで我々はとても苦しい思いをしたものだ、と人々は言っておった。それで、この地区の者のうち戦いから生還したのはほんの一握りの者だけだったそうじゃ。助かったのは8名の者だけだったと言われておる。殺されて行ったのだ。殺されて行ったのじゃよ。彼らが先っぽを削ったルギ（槍）やウィトゥルウェ（投石縄）（写真1）を持ち歩いていたのに対し、奴らは銃を持ち歩いておったのじゃからのう。それでこのあたりの者たちはな、少しの者が生き残っただけなのじゃ。

（3）マラルというところのな、その上手の方にジウィンというところがある。そこを進んでいた時のことだそうだが、危うく（敵に）追いつかれそうになったという。丘が一つあるそうだが、それで彼らは（その丘を）登ったとき、危うく途中で追いつかれそうになったという。その時そのロンコがこう言ったそうじゃ。「性悪な犬野郎どもめ、俺は鳥だって射止めてきたのだ。これ（投石縄）で（敵方の）隊長を射止められぬはずがあるものか。」と言ったのだと。敵は隊長抜きに進軍することはないからな。それから言ったそうだと。石ころを持ってくるようにと言ったそうだと。それで追手の者たちに石つぶてをお見舞いしたという。それで石つぶてを発射して、（敵の隊長の）目をねらったそうだと。目をねらって石を放つと（命中して）眼が飛び出したのだという。転がり落ちて行ったのだそうじゃ。それでな、それで（生きて）帰って来たんだと。それでわしらは戻ってきたのだと言っておった。（さもないけれど）この地区の者は1人も残らんようになってしまおうところだったそうじゃ。1人もおらんようにな。

<人々の苦悩>

（4）それから子供たちはな、首を切り落とされたそうじゃ、首を切り落とされたと言われておる。それでわしの亡き母はな、それで森中に隠されたそうじゃ。（「クブルウエ」にくくりつけられて）立てかけて置かれた⁽¹³⁾のだそうじゃ、ある大きなキラ林の中にな。

（写真3）今は亡きわしの母がな。

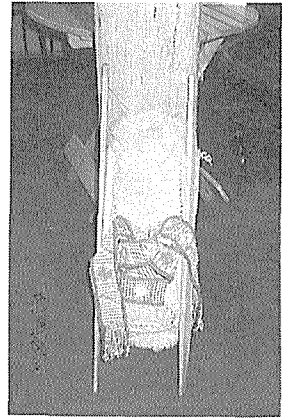
「筆者」三日間ですか。⁽¹⁴⁾

「ロサ」ああ、キラ林の中にじゃ。それで夜明け近くになってだと思うが、迎えが来てな、それでな、それでわしらがこうして生まれているというわけだ。

写真3. クプルウェ

それから彼らも戦ったのだ、彼らのロンコもな。それは偉大な亡きわしのおじいさんじゃよ。その、わしの母方のおじいさんじゃ。「筆者」なるほど。

(5)「ロサ」(そのおじいさんは)あるセニョーラ⁽¹⁶⁾を連れに行った⁽¹⁵⁾そうじゃ。これくらいの小さなセニョーラだったのだが、連れ出しに行ったそうじゃ。小さなセニョーラをな。ルマコの方に連れに行ったと言われておる。それで連れて来て(彼女を)育て、それでそのセニョーラが大きくなったところでな、妻に娶ったそうじゃ。こうして今は亡きわしの母親が生まれたというわけだ。だから生まれたのじゃよ。



(6) そんなふうだったという話でな、とてもひどい有様だったとな。それで奴らは突然やってきたのだ、ウィンカたちはな。それで彼ら(マプーチェたちは)ウィンカを殺してしまうという話になったのだ。この Chol Chol にはこれまで集落などなかったといつてな。テムコにも集落などなかったといつてな。プレンも同じじゃ。

プレンではな、ある地区の者が皆殺しにされたそうじゃ。全滅したそうじゃ、その地区の者たちはな。それで…、それで彼ら(ウィンカ)は家を建て、都市を造ったのだ。こうしてやって来たのじゃよ。その、ウィンカという名ではなかったな…、そのコロン(植民者)⁽¹⁷⁾を連れだして、海の向こうから連れてきたそうじゃ。そうしたのはウィンカじゃ。

そんなわけでな、とてもひどい事がいろいろあったのだ。今では人々は平静を取り戻したといわれ…、言っていたものじゃ、事の次第を知るわしの亡き祖母はよくそう言っていたもんじゃ。

(7)(銀の)イヤリングも奪われたそうじゃ。腕輪もな。昔人々はたくさん銀細工の品⁽¹⁸⁾を持っていたものだ。だが、切り取ら…、それで銀の品々を埋めたと、銀の品々が埋められているのだと言っておった。こんなに大きな壺に銀の品々を入れて人々は外に運び出し、埋めたそうじゃ。それでな、それで銀の品々が埋まっていてとてもたくさんだったが、逃げ出すことになって銀の品々は掘り出せずじまいになったと言っておった。

そんな事が昔あったと言っていたものじゃ、わしの…。わしらはとてもつらい目に会った、ルギ葦を食べたこともあるとな。わしらはガドゥ(野生イモ)も食ったとな。誰もがルギ葦をな、これくらいの小さな若芽を、ルギの若芽をな、こういう堅くないのを、それをわしらは食ったと言っておった。それを粗末な缶に入れてしまっていたそうじゃ。そんな風にわしらはつらい思いをしたものだと言っておった。

<ミジャパンの行動>

(8)「筆者」なるほど。それからミジャパンていう…

「ロサ」ミジャパンというのはな、その…

「筆者」お兄さんですよね。

「ロサ」ああ、兄じゃ。それでな、自分の弟がやって来ると、それでとり行つたと、それで祈願をな、祈願を行つたという。祈願をしよう、まず祈ろうじゃないかってな、もう我々は戦わざるを得ないようだからと、そうミジャパンは言つたそうじゃ。ロンコだつたのでな。そのトトーラの向こうの場所、そこで祈願を行つたという。トトーラという大きな平原があつてな。そこにこの付近の者たちは出かけていったそうじゃ。それから向こうに住む者もマラルの者もな。入り切ることすらできないほどの人が集まつたとわしの亡きお母さんは言つておつた。入り切らんほどの人で、祈願をするために各々が食べ物を持参してな。勝つために、ウィンカを討ち負かすために人々は熱心に祈願したそうじゃ。

こうすれば討ち負かしてきたのだと、奴らが計画をあきらめるように、奴らの目論見が水泡に帰すように、ウィンカに恥をかかせてやろうではないかと言つたそうじゃ。昔の人は祈願を行つたと、とても見事に祈願を行つたものだと言つていたそうじゃ。こういう風にして、それで奴らの目論見は挫折し、出撃するのをやめたのだと、計画をあきらめたのだと言つてな。

（９）（敵は）進行…、大軍をなして進行したそうだが、そうするとそのロンコはクルクル（角笛）を持ち歩いて、吹き鳴らして回つたという。（敵が）もうやって来ると、遠くからやって来ると、彼らは自分のクルクルを吹き鳴らしたのだ。人々を家から出させてな。逃げたのだ。

「筆者」なるほど。

「ロサ」逃げたのだ。どうしようもないじゃろう、昔人々は鉄砲を持っていなかったのだからな。ウィトゥルウェ（投石縄）とルギ（槍）だけだつたのだ。これ（ルギ）は太い木で作る。これくらい大きいものでな。だがたった一度きり打撃を与えられるだけじゃ。たった一撃だけ。そんな有様でわしんところの人々は戦い、で…半分の者が戦死したという。半分が死んだとな。

（１０）その（チョルテヨルのマプーチェたちが戦いを仕掛けに）出向いたところ、その、ルマコの方へ攻撃しに行つたということも言われておるが、この辺りのものたち、ここのコイプコの者やマラルの者たちは出かけていったとわしは聞いておる。追い払…、そのウィンカを、そのウィンカたちを追い払つたそうじゃな、知つて、もし戦い方を知つていたら（敵を）全滅させていたところだつたそうじゃ。

そのルマコにはもうそれ以上の者（ウィンカ）はおらんようになって、わずかの者だけになったのだ。彼ら（マプーチェ軍）は大勢で進入したのだが、もしこちら側とあちら側とで挟み撃ちにしていたら、わしらは（敵を）投石網で全滅させていたところだと、ルギ槍で全滅させていたところだと言つておつた、わしの…、今は亡き偉大なわしのおじいさんがそう言つておつた。それは今は亡きわしの祖父じゃ。

「筆者」そうですか。

「ロサ」わしの父の父じゃ。そんな風に人々はつらい目に会つたそうじゃ。今では、そうして平靜になっておるけどな。もう人々は戦わなくなったのだ。

＜白馬に乗って出兵した祖父＞

（11）「筆者」でも、あなたのおじいさんでしたかね、その人も一頭の白い馬に乗って出陣したんですね。

「ロサ」それで捕まることはなかったそうじゃ。

「筆者」ええ。

「ロサ」捕まることはなかったのだ。敵陣の真っ直中に乗り込んで行ったそうじゃが、鉄砲で撃たれてもこう向きを変えたんだと。それで川のほとりに追いつめられると、川に馬ごと飛び込んだそうじゃ。

（12）だが、それは『祈り場』に行っていた馬だったとも言われておる。ワシらの土地にも『祈り場』があつてな、その『祈り場』に連れて行っていた馬だったのだ。十字架に結びつけられていたという。それで祈りを授かってな、祈りを授かって出てきたというわけじゃ。それから家でも祈りを授かっていたそうじゃ。

その馬は敵に捕まることはなかったのだ。鉄砲の攻撃をうけたそうじゃがな。ありとあらゆる奮闘ぶりだったという。泳いで川の向こうまで渡ったそうじゃ。もしじいさんが鉄砲を持っておったら、その馬に乗って敵を皆殺しにしていたはずに違いないて。

赤色のたてがみをしておった、その馬…。生まれた時からそうだったという。たてがみが赤色をしておったと。でも（肌の色は）白い馬でな。白い馬だったそうじゃ。

（13）そんなわけじゃから、皆は（じいさんが）もう死んじまったに違いないって話していたのだがな、生きて帰ってきたのだ。敵陣のど真ん中をすり抜けて行ったそうじゃ。こんな風に鉄砲の弾が飛び交う中を抜けて行ったが、決して捕まらなかったという。捕まることはなかった。捕まることはなかったのじゃ。決してな。川の中で弾丸の嵐を受けても、別の場所に現れたという。まるで魚のようだったそうじゃ、その馬はな。人と馬とが一体になって、（じいさんは）鞍にしっかりつかまっていたのだ。それで（その馬は）魚のように泳いだんだと。

それで生きて帰ったそうじゃが、かすり傷一つ受けてなかったのだ。どんな傷もな、決して受けることはなかったという。

「筆者」それであなたのおじいさんは助かったと。

「ロサ」それでわしのおじいさんは助かったのじゃよ。それで助かったのじゃ。

＜コニョエパンとミジャパンの捕囚＞

（14）「筆者」それからあなたはコニョエパンとミジャパンとが捕虜になったという話をされましたよね。

「ロサ」ああ、それも本当じゃよ。その二人が捕虜になった、捕虜になったのはその、自分の土地から連行されたのじゃ。探しに来られて、それで都市が建てられる予定だった場所まで連れて行かれ、その Chol Chol というところ、そこも彼らの土地だったそうじゃ。

昔、人々はたくさんの土地を持っていたそうじゃ。それでな、我々もこうして住んでおるが、そこにはフントウ（大農園）⁽¹⁴⁾もあるし、またそこにはまた大きなフントウも一つあるがな、これはもともとマプーチェの土地だったそうだ。ウィンカが彼らから奪ったのだ、力づくで、戦いをしかけてな、それでウィンカは居座ったのだ。あらゆる事の次第をわしは、（ウィンカは）土地をわがものにしようとしてやって来て、土地の境界をマプーチェに押しつけたそうだ。それで（マプーチェには）それだけの土地しか与えられなかったのじゃ。

（15）そういうわけで、それで、そのチオルチヨル集落があるところは今は亡きコニョエパンの、コニョエパンとミジャパンの土地だったそうだ。それで、チオルチヨルが建てられてしまうとって、それでな、それで実際に建てられてしまうと、戦い…、怒り狂ったそうじゃ、誰だ、そのミジャパンがな。ミジャパンの方が年上だったという。ロンコだったそうじゃ。それでコニョエパンも助力したのだ。弟だったのでな。

そういうわけで、それで、そのミジャパンは泣いた、と亡きわしの父は言っていた。涙を流してな、居座られてしまう、またわしの土地をウィンカに奪われてしまう、ウィンカがわしらを指図するようになってしまうとってな。それで祈願したのだそうじゃ。祈願をな。ロンコだったのでな。

（16）そんなわけで、それで解き放たれて、それで「帰るように」と言われたので、それで戻ったそうじゃ。戻って来たとな。だが、コニョエパンはそこに残ってな、それで（ウィンカに）加勢することを宣言したそうじゃ。残ったそうじゃ。戦い…、（銃の）扱い方を覚えてな。それでまた仲間のものたちのところへ戻って来たそうじゃ。加勢することを誓い、戦おうといったそうじゃ。わしは持ってきた、たくさんの武器を持ってきたからと言ったそうじゃ。

そんな風にしてな、それでウィンカに対して戦いを挑み、マプーチェたちに助力したのじゃ。彼らを助けたのじゃ。それで皆が共闘することを誓ったそうじゃ。いろいろなところからそちらへ出かけて行って、自分たちの勢を受け入れてくれるように（コニョエパン）に嘆願したそうじゃ。こうして彼は多くの勢を従えることができたのだといわれておる。

（17）それから祈願も取り行ったそうだ。大きな祈願が行われたとわしの亡き母は言っておった。全ての人々が集まったそうじゃ。こうすれば事は収まるものだと、事が収まるように、我々の土地をウィンカが侵略し続けることのないようにと言ったそうじゃ。それで侵略は止んだそうじゃ。事は収まったのだと、そう亡きわしの母は言っておった。

そんなわけで、そうしてな、1週間もたつとまた侵入して来たそうだ。やってきて、人々を追いかけては嗅ぎ回ったそうじゃ。気に入った家があるとそこの馬の肉を食ったり牛の肉を食ったりしてそこに居座ったのだ。二日、三日と一件の家に居座ったそうじゃ。そのウィンカどもはな。そんな風にしてウィンカは人々を苦しめたのだよ、とわしの亡き母はよく言っていたものじゃ。

（18）「筆者」そうですか。それから何冊かの本で、わたしは何冊かの本を読みました。で、その本の中でベナンシオ・コニョエパンについて、政府の友人であるかのように書かれていたのです、コニョエパンのことが。では、そうではないのですか。

「ロサ」それも違う。そんな風に行動したのだ、コニョエパンはな。いつも人々のために助

力していたのじゃよ、やはりそうでないはずはないのだ。

「筆者」なるほど。

＜母方祖母はセニョーラ（白人系女性）＞

（19）「筆者」それからあなたの母方祖母、あなたのおばあさん、あなたの父方祖母でしたか、あなたの母方祖母…。

「ロサ」わしの母方祖母はセニョーラじゃよ。

「筆者」ほう、ほう、ほう。ああ、セニョーラですか。

「ロサ」セニョーラ。セニョーラの子供なのだ。セニョーラの子供。セニョーラの子供じゃよ。真正正銘のセニョーラの子供じゃ。「捕虜」にされたのだ⁽²⁰⁾。「捕虜」にするという言い方をウィンカはするようだが、「捕虜」にされて連れてこられたのだ、そのセニョーラ、幼いセニョーラはな。

「筆者」ほう。

「ロサ」わしのおじいさんが育てたのだ。

「筆者」ほう。

「ロサ」育ててな、それで大きなセニョーラになったところで、成熟した女性になったところで、それで妻にしたのだ。そんな風にして、今は亡きわしのおばあさんが誕生したというわけだ。

「筆者」なるほど。

「ロサ」そういうわけだ。

「筆者」なんという名前だったんですか。

「ロサ」今は亡きわしのおばあさんかな？

「筆者」その人です、その人。

「ロサ」ホアナじゃ。

「筆者」ホアナですか？

「ロサ」ホアナという名じゃった。

「筆者」なるほど、なるほど、なるほど。

「ロサ」ホアナという名じゃった。

＜この伝承を語ってくれた母親の伯母＞

（20）「筆者」なるほど。でも、あなたのおばあさんからあなたは話して聞かされた、聞かされていたのですか、その…。

「ロサ」いや。わしはその人は知らずじまいじゃ。その人のことは知らん。亡きわしのお母さんの…、その…、わしの「祖母」⁽²¹⁾、もう一人の祖母だが、その人は知っておる。わしの…、今は亡きわしのお母さんの今は亡き「伯母」⁽²²⁾ じゃ。その人。それはわしのおばあ…、

そう言っておった、わしの…。彼女ら二人は「姉妹同士の間柄」⁽²³⁾ だとな、そのわしのおばあさん、もう1人のな、わしの母の伯母にあたるおばあさんはな。姉妹同士の間柄だったそうじゃ、わしの…、わしのおばあさんとはな。

あんたらの祖母の方が下⁽²⁴⁾ で、本当ならあんたらはあの人のことをとてもよく知ることになるはずだったのだから、わしのことをよく知ることになったのだ、と言っておった。わしのことを知ることになったのだと。わしの方が下、わしが下…、わしの方が上⁽²⁵⁾ であんたらのおばあさんの方が下だったと言っておった。姉妹同士の間柄だったとな。姉妹同士のな。

「筆者」姉妹同士の間柄だと。

「ロサ」姉妹同士の間柄じゃ。それで母の伯母にあたる、その母の伯母にあたる祖母、その人のことは我々も知っておる。だが、わしらの祖母のことはわしらは知らんのじゃ。

(21)「筆者」でも、それじゃあ、あなたは誰からその『平定』っていう戦闘のことを聞かされたのですか。

「ロサ」それはわしのおばあさん⁽²⁶⁾ じゃ。わしのお母さんもその話をしておったし、皆がな。それでわしも知っておるのだ。それでな。

(だがそれは、わしがこの話を) 心に刻みつけたからでもあるのだ。心に刻みつけたもの、そうしたもののだけが覚えているのじゃ。今は亡きわしの姉妹たちは、『わしらは話してもらったことをもう覚えておらん』、と言っていたものじゃ。『あんたは本当によく覚えているね』、とな。われわれ(の兄弟)は数が多かった、みな成熟しておってな。で、われわれ(の兄弟)の数は5人じゃった。よく夜遅くまで起きていてな、『お話をしようか』って言っていたものじゃ。『亡くなったわしらのおばあさんはそんな話をしていたなあ。おばあさんは(そう)話していたっけ』と。(おばあさんは) キントウルという名じゃった。

昔の人は物事を意味する名前をしておったのでな。それでキントウルという名じゃった。『キントウルおばあさんはそう言っていたなあ』って、わしらは話していたものじゃ。『わしは話されたことをもう覚えてないよ』って、今は亡きわしの姉は言っておった。一切のことを忘れてしまったのじゃ、今は亡きわしの姉や妹たちはな。心に刻みつけなかったものは覚えてはおらんのだ。覚えてはおらん。もう思い出すことはできんのだ、ああ。もう思い出すことはできんのじゃよ。

6. 感謝の言葉 (Mañumün)

Rume mañumafin̄ doña Rosa Barra Kayul ta ñi eluetu meu tūfachi kimün. Ka chaeltun piafin̄ ta ñi wenüi, don Hilario Huirilef, doña Rosa ñi pūñeñ, ta ñi alü kelluetu meu ta ñi küme elafiel tūfachi kimün.

この証言を与えてくれたロサ・バーラ・カユルさんに大いに感謝します。また、この証言を正しい形で残すためにいろいろな形で助力してくれたロサさんの息子イラリオ・ウィリレフ氏にも感謝します。

7. 注

- (1) 今日のマチの状況については、千葉 (a) (1987)、千葉 (c) (1988):142-211、千葉 (d) (1988) 参照。
- (2) 「abuela 祖母」 この「祖母」という表現の真の意味については、注 (21) 参照。
- (3) 「平定」以前の時期のイスパノ・クリオーリョ社会とマプーチェ社会の交流については、Villalobos y otros (1982)、および Villalobos y otros (1989) 参照。
- (4) 国有化された土地の移民への譲渡や競売の過程については、Bengoa (1987):151-364. 参照。ルマコ地区におけるイタリア人移民集落の建設については、Contreras B. y Benturelli A. (1988) 参照。
- (5) 「平定」後のマプーチェ社会の経済状況については、Bengoa, J. y Valenzuela E. (1984) 参照。
- (6) 植民地時代の17世紀初頭から18世紀後半にかけて、マプーチェ語で書かれて出版された文献が存在しないわけではないが、それらはいずれもイエズス会などの修道会士がキリスト教を布教する目的で作成した告解手引き書や辞書、文法書の類である。
それに対し、19世紀後半にマプーチェ自身の語りを原語で収録した唯一の記録としては、民俗学者ロドルフォ・レンスが「平定」以前の時期を含むマプーチェの生活の諸相に関する証言を集め、原語とスペイン語による対訳の形で呈示した *Estudios Araucanos* (1895-1897) が挙げられる。
- (7) Guevara (1913):145-147.
- (8) Bengoa (1987):211, 251, 261, 267, 281-282, 287, 291, 295, 298, 313, 314-315, 316-317, 324. 参照。「マプーチェの歴史」(1985年初版)は、19世紀初頭から1960年代に到るマプーチェの歴史を、政府高官や軍人の報告書、電報、新聞記事など多様な文献を駆使する一方で、各地のマプーチェの間で口承されてきた伝承をも積極的に活用しながら明らかにしようと努めている点で意欲的な研究である。
だが、残念ながらベンゴアが引用している伝承は、原語の語りの形ではなく、いずれもスペイン語を解するマプーチェの通訳に作成させたスペイン語訳のみとなっている。
- (9) 文字に書かれた「マプーチェ史」に対する憤りを吐露したマプーチェの証言の例としては、千葉 (b) (1997):99-101, 105-106. 参照。
- (10) スペイン人による「征服」とチリ軍による「平定」に関するマプーチェの証言例としては、千葉 (b) (1997) 参照。
- (11) 「lonko ロンコ」「頭」、あるいは「地区の長」を意味するマプーチェ語の名詞。
- (12) 「銃 arma」スペイン語で本来「武器一般」を意味する名詞「arma」が、マプーチェにとって最も手強い敵の武器であった「火器」、特に「銃」を指す名称として使われている。
- (13) 「retrüntukunungefui 立てかけて置かれた」この表現は、「クプルウエ kupulwe」という乳児を縛っておく板状の道具(写真3)にくくりつけられた形で、キラ林の中に立てかけて置かれていたということを指す。
- (14) ここで筆者は、ロサが「キラ林の中に külantü mu」と言ったのを聞き違えて「3日間 küla antü mu」と相づちを打ってしまったが、ロサは気にせずに話を続けている。
- (15) 「yemerkei 連れに行ったそう」この表現の意味については、注 (20) 参照。
- (16) 「señora セニョーラ」スペイン語における本来の意味は「既婚女性」だが、マプーチェ語に借用された名詞としての意味は、既婚か未婚かを問わず「マプーチェではない女性」、すなわち「白人系の女性」という異義で用いられている。したがって、本文の中に現れる「小さなセニョーラ」とは、「白人系の幼少の女の子」という意味となる。
- (17) 「colón 植民者」19世紀後半から今世紀初頭にかけて、「進歩」をもたらす人的要素として、チリ政府が誘致を奨励したイタリア人をはじめとするヨーロッパ系移民をさす。
- (18) 「plata 銀細工」スペイン語で「銀」を意味する名詞「plata」が、銀を材料とする装飾品一般を示す集合名詞として使われている。マプーチェ社会における銀細工嗜好の発展プロセスについては、千葉 (a) (1998) 参照。
- (19) 「funtu フントウ」チリのスペイン語で農業や牧畜を主要な生産活動とする「大土地」を指す名詞「fundo フンド」が、マプーチェ語の音韻的影響を受けて変容したもの。

- (20) 「cautivangemei 捕虜にされた」「平定」前のマプーチェの間では、ある地区の戦士たちが白人系チリ人の制圧する地域や他のマプーチェ地区に「マロン malón」と呼ばれる襲撃行為を行い、家畜や女子供を戦利として獲得する習慣があった。

ロサの祖母の場合、まずチリ政府制圧地域の実質的なフロンティアであったビオビオ川付近の集落に対してルマコ地区の戦士たちが襲撃を仕掛け、その中のある者が幼年の白人系女性を獲得していたのだろう。そしてその後、より南方に位置するチョル Chol 地区に住むロサの母方祖父にあたる人物が、おそらく婚資を支払うという形でこの幼少の白人系女性を獲得して後に妻にした、ということを示唆しているものと思われる。

身分に関係のない一夫多妻制を特徴としていたマプーチェ社会の中で、「妻の数」は成人男性にとって社会的ステータスを示す重要な指標であった。そして、よそ者である「セニョーラ」を妻に持つことは、その意味で特に重要な要因であった。

- (21) 「abuela 祖母」、(22) 「tía 伯母」、(23) 「lamngenwen 姉妹同士」、(24) 「inan 下の」、(25) 「wünen 上の」ロサはここで、自分にこの伝承を語ってくれていた人物と自分、およびこの人物と自分の母方祖母との関係を説明している。

まず彼女は、この女性を一旦「祖母」と呼んだあとで「母親の伯母」と言い直している。注 16 で示唆したように、ロサの母方祖母は白人系女性であった。したがって、この人物が文字通り「母親の伯母」、あるいはロサが後述するように「母方祖母の姉」であるとすれば、この人物も「白人系女性」であることになる。

一方、一夫多妻制を特徴としていた当時のマプーチェ社会では、同一の男性が血のつながった姉妹を妻にするということも珍しくはなかった。そしてロサがこの女性を「祖母」あるいは「もう一人の祖母」と称していることから、この女性がロサの母方祖父のもう一人の妻であった可能性が高いと推測される。

ただその場合、この女性がロサの母方祖母の姉だとすれば、自分の妹にあたるロサの母方祖母とともに、かつてルマコ地区のマプーチェ戦士団によって「捕獲」された後、同じ運命を辿ったということになるが、そうした経緯についてロサは一切言及していない。

また、ロサの母方祖母の名前が明らかにヨーロッパ系の名称である「ホアナ」であるのに対し、この女性の名が伝統的なマプーチェの名「キントウル」であることも、この二人が実の姉妹であることを疑わせる事実である。

したがって、もう一つの可能性としては、ロサの言う「伯母」、「姉妹同士」などの表現が擬似的な関係に言及しているということも考えられる。つまり、「伯母のような人」、「姉妹同然の関係」などという意味で、実際にはこの二人の間には血縁関係はないが、同一の男性（母方祖父）の妻であるという一種の連帯感ゆえに、ロサがこうした表現を用いているという可能性である。

その場合は、「上の」あるいは「下の」という表現も姉妹の「年長」、「年少」という意味ではなく、「第1の（婦人）」とか「第2（以下）の（婦人）」といった、複数の妻の間の序列を意味すると考えられる。こう考えれば、この人物がマプーチェ女性であっても問題はなく、「キントウル」というマプーチェ名も不可解ではなくなる。

いずれにしても、現在筆者には確認する手段がないので、本稿ではこの二つの可能性を指摘しておくだけにとどめたい。そして、この点については次回ロサに会った時に明らかにしたいと思う。

8. 参考資料

(1) 音声資料 (MD 録音)

Barra Cayul, Rosa, *Testimonio*, Comunidad Romulhue, Sector de Choll Choll. No. 1: 25 de agosto de 1996.

(2) 文献資料

Bengoa, José, *Historia del pueblo mapuche*, Santiago de Chile, Ediciones Sur, 1987, 2ª edición.

Bengoa, J. y Valenzuela, E., *Economía Mapuche. Pobreza y subsistencia en la sociedad mapuche contemporánea*, Santiago de Chile, PAS, 1984.

千葉泉 (a), 「『マチ』と夢と銀細工ーチリ先住民伝統医療師の現状ー」『大阪外国語大学論集』第17号所収、1997年、203-230頁。

千葉泉 (b), 「マプーチェ歴史伝承、ラウタロ区 (1) —フアン・コネヘーロの語る「征服」と「平定」—」, Estudios Hispánicos, No. 22 所収、大阪外国語大学スペイン・イスパノアメリカ研究室、1997年、95-112頁。

千葉泉 (c), 『馬に乗ったマプーチェの神々ーチリ先住民文化の変遷ー』、大阪外国語大学学術研究双書19号、1998年。

千葉泉 (d), 「『マチ』の証言: ルマコ区 (1) —エウダリア・ライマンの場合—」, 『大阪外国語大学論集』第19号所載、1998年、233-259頁。

Contreras Batarce, Juan y Venturelli Abad, Gino, *NUEVA ITALIA: UN ENSAYO DE COLONIZACIÓN ITALIANA EN LA ARAUCANÍA*, 1903-1906, Ediciones Universidad de la Frontera, Temuco, 1988.

Guevara, Tomás, *Las últimas familias araucanas I costumbres araucanas*, Santiago de Chile, Imprenta Litografía I Encuadernación "Barcelona", 1913.

Lenz, Rodolfo, *Estudios Araucanos*, Santiago de Chile, Imprenta Cervantes, 1885-1897.

Villalobos, Sergio y otros, *Relaciones fronterizas en la Araucanía*, Ediciones Pontificia Universidad Católica de Chile, Santiago de Chile, 1982.

Villalobos, Sergio y otros, *Araucanía: Temas de Historia Fronteriza*, Temuco, Ediciones Universidad de La Frontera, 1989.

(1999.5.10 受理)